

 教育出版

資料活用の系統		学年
グラフの活用	地図の活用	
- 元データを表にまとめる。 - 表をもとにして棒グラフを作成する。 - 棒グラフから順位を読み取る。 - 調べたことを並べて、年表にまとめる。 - 年表を読み取る。	- 方位の基本を理解する(四方位・八方位)。 - 絵地図を描いてまとめる。 - 基本的な地図記号を知る。 - 地図は上空から見た土地の様子を平面に表したものであることを理解する。 - 段彩から土地の高低を読み取る。 - 土地利用図を読み取る。 - 地図帳の索引の使い方を理解する。	小3
- 棒グラフを読み取り、全体の傾向をとらえる。 - グラフを読み取り、変化の理由を考える。 - 複数のグラフに関連づけて読み取り、その変化のしかたの違いに着目することを通して追究すべき課題を見いだす。	- 各種の主題図を読み取る。 - 等高線の基本を理解し、地形図から土地の高さを読み取る。 - 縮尺についての基本的な考え方を理解し、目的に応じた縮尺の地図を自ら選定して活用する。 - 時期の異なる地図を見比べる。	小4 前期
- 雨温図を読み取る。 - 円グラフを読み取る。 - 折れ線グラフを読み取る。 - 帯グラフを読み取る。 - グラフを読み取り、これまでの変化のしかたを踏まえて、今後について予想する。	- 地球儀を活用し、世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置をとらえるとともに、地球上の実際の距離を測り方位を調べる。 - 地球儀と地図(平面図)の基本的な違いを理解する。 - 緯度・経度についての基本的な考え方を理解する。 - 等高線を読み取る。 - 各種の主題図を読み取る。	小5
課題に応じて必要なグラフ等の資料を自ら選定して活用する。	各種の主題図を読み取る。	小6 中期
【地理】 ・小学3～5年で学んだ、地図(地図帳)とグラフのきまりや使い方を確認する。 ・地球儀や地図の活用の仕方や、略地図の描き方を身に付ける。主題図、写真資料などから情報を読み取る力を養う。 【歴史】 ・小学6年で学んだ年表の見方を、「年代の表し方と時代の分け方」で確認する。 ・写真、系図、絵巻物などの資料の読み解き方などを学び、活用できるようにする。 ・中心資料や年表から、各時代の特徴や流れを読み取る。 【公民】 ・情報源の基礎としてのさまざまな「メディア」について、小学5年での学習を振り返りながら、特色や使う場面、情報の読み取り方、活用法を学ぶ。 ・情報の種類と活用法、グラフや写真資料の読み取りの際の留意点や、「クリティカル・シンキング」の意義を学ぶ。 ・読み物中心の特設ページについては、それぞれを身近な生活と結び付けて読み解き、要点や課題を自分なりに整理する。		中1
【中学社会】における表現活動 【地理】 ・「地域調査の方法を学ぼう」「地域のあり方」の学習では、個人やグループで文献調査や現地調査などの調査活動を行い、調べたことをまとめてスライドやポスターを作成したり、発表会を行ったり、地域の課題を探って解決方法を地域の方々に発信する。 【歴史】 ・時代の変化を資料から読み取り、理由も含めて説明する。 ・各時代がどのような時代だったのかを、自分の言葉で説明する。 【公民】 ・活動中心の特設ページでは、グループで「ディベート」や、「裁判シミュレーション」、「まちづくりへの提案」の作成などを行い、意見をまとめたり、地域に提言したりする。 ・福祉が抱える課題を調査し、レポートにまとめる。 ・社会科のまとめとして、持続可能な社会を築く観点から、卒業作品「私の提案」を制作する。		中2 後期 中3

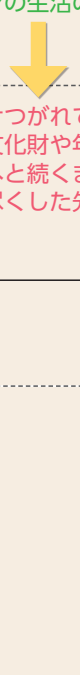
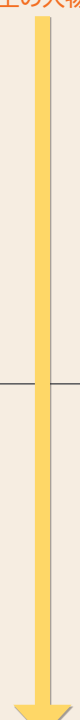
高等学校 地理歴史科「地理総合」・「歴史総合」／公民科「公共」

【地理的分野】 小・中社会科の連携表

学年		地理的な内容
前期	小3	「1 わたしたちのまちと市」 〈身近な地域や市区町村の地形、土地利用、公共施設、交通の様子など〉 「4 わたしたちの市の歩み」 〈市区町村や人々の生活の様子の移り変わり〉 「2 はたらく人とわたしたちの暮らし」 〈地域の生産や販売の仕事〉
	小4	広げてみよう、市から県へ 「みりょくがいっぱい！知りたいな、47都道府県」 〈47都道府県の名称と位置〉 「1 県の地図を広げて」 〈都道府県の地形、主要産業、交通網、他地域との関わり〉 「6 わたしたちの県のまちづくり」 〈県内の特色ある地域の様子〉
中期	小5	「1 日本の国土とわたしたちの暮らし」 〈世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、日本の位置と領土、国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活〉 「2 未来を支える食料生産」 〈農業・漁業、土地利用の特色、運輸のはたらきなど〉 「3 未来をつくり出す工業生産」 〈日本の工業生産の特色や工業地域の分布、貿易や運輸のはたらき〉 「4 未来とつながる情報」 〈情報や情報技術を活用して発展する産業と国民生活の向上〉 「5 国土の自然とともに生きる」 〈公害、国土保全と森林資源、自然災害の防止など〉
	小6	「3 世界の中の日本」 〈日本とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際的な交流・協力と日本の役割〉
	中1	【第1編 世界と日本の地域構成】 第1章 世界の地域構成 第2章 日本の地域構成 【第2編 世界のさまざまな地域】 第1章 世界の人々の生活と環境 第2章 世界の諸地域
	中2	【第3編 日本のさまざまな地域】 第1章 地域調査の方法を学ぼう 第2章 日本の特色と地域区分 第3章 日本の諸地域 第4章 地域のあり方
	中3	
高等学校 地理歴史科 「地理総合」		

学習の中心概念		取り上げている重要語句
・学校の周りや身近な地域にはさまざまな場所がある。それぞれ土地の様子、建物の様子、交通の様子は、場所によって違いが見られる。 ・わたしたちの住んでいる市区町村には、さまざまな場所がある。それぞれの土地の様子、建物の様子、交通の様子は、場所によって違いが見られる。 ・わたしたちのまちには、ものを売る仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事をするうえで、客の願いに合わせたさまざまな工夫や努力をしている。 ・わたしたちのまちには、工場で働く人、農作物をつくる仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事の中で、さまざまな工夫をしている。 ・市の交通、土地の使われ方、人口、公共施設は、時期によって移り変わってきていて、それぞれに関わりが見られる。		方位 公共しせつ 土地の様子 交通の様子 地形 売り上げ ねだん 品ぞろえ 新せんさ べんりさ サービス 品質 原料 えいせい 出荷 地産地消 作物カレンダー 土づくり 人口 ぜいきん
・わたしたちの都道府県には、特色ある地形とそれらを生かしたさまざまな産業がある。主な都市は、平野を中心に分布し、それらを結ぶように交通が広がっている。 ・福岡県の東峰村では、伝統的な技術を生かした焼き物づくりが盛んである。人々はその伝統や技術を大切に守りつつ、協力して、地域のよさを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ・福岡県の太宰府市は、史跡や文化財など昔から伝えられてきたものを守るだけでなく、昔から受けついだよさを未来に伝え、特色のあるまちづくりに生かそうとしている。 ・福岡市は、特に、アジアの国々との交流が昔から盛んであり、そのつながりが今も続いている。これからもいっそう交流を深めていくために、さまざまな取り組みが行われている。		地形 土地利用 産業 交通 県庁所在地 昔からのぎじゅつ 伝統的工芸品 焼き物に使う材料 史跡 文化財 観光 開発と保存 国際交流 姉妹都市（友好都市） 国旗
・日本の国土の位置や広がりの特色として、ユーラシア大陸の東にあり、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合うこと、太平洋や日本海に囲まれた、南北に連なる大小の島々であること、などがある。 ・日本の国土には、山がちで大きな平野が少ないこと、四季の変化があること、国土の北と南、太平洋側と日本海側とで気候の違いが見られることなど、地形や気候にさまざまな特色が見られる。地形の特色や国土の形が、気候の特色にも影響を及ぼしている。 ・気候や地形に特色のある地域では、その自然条件に合わせて、人々が暮らしや産業の中でさまざまな工夫や努力を続けており、国土の自然環境が人々の生活や産業と深く関わっている。 ・農家の人たちは、自然条件を生かしながら、さまざまな工夫や努力をしておいしく安心して食べられる米をつくっている。その米をより多くの消費者に届けるためには、流通に関わる人たちのはたらきや、消費量を増やすための新しい取り組みも大切である。 ・水産業に関わる人々は、水産資源と自然環境を守ることに気を付けながら、さまざまな工夫や努力をして、新鮮で安心して食べられる水産物を消費者に届け、生産を続けていこうとしている。 ・国内の食料生産をこれからも続け、安心して食べられる食料を確保し続けるためには、質の高い生産に加えて、販売の工夫や新たな技術の開発なども大切である。また、わたしたち消費者も、輸入に頼りすぎないよう、食生活を見直していくことが大切である。 ・自動車の生産には、新たな機能の開発から輸送まで多くの人が関わっており、さまざまな工夫や努力をして消費者や社会のニーズに応えた自動車を生産し、届けている。 ・さまざまな輸送手段を利用し、貿易によって世界と結びつくことで、日本の工業生産は成り立っている。 ・重化学工業を中心としたさまざまな種類の工業生産が、海沿いの工業地帯など日本の各地で行われている。国内の生産を発展させていくには、中小工場などがもつ高い技術や豊富なアイデアを生かし、人々の生活を豊かにする新たなものづくりに挑戦することが大切である。		領土 山脈、山地 平野 梅雨 台風 季節風 特産品 家のづくり 開拓 水の管理 品種改良 耕地整理 生産調整 米の消費量を増やす試み 水あげ せり 育てる漁業 水産資源 食料自給率 地産地消 ライン 関連工場 ジャスト・イン・タイム方式 ニーズ ユニバーサルデザイン 貿易 天然資源 輸送手段 工業地帯、工業地域 中小工場、大工場 海外生産
・情報通信技術を利用することで、大量の情報を集めて管理し、分析できるようになり、さまざまな産業や暮らしの中で便利なが増えている。その技術をどのように生かしていくべきか、自分に関する情報がどのように使われるのかなどを考えていくことも大切である。		情報通信技術（ICT） 大量の情報（データ） 情報の流出
・日本の国土ではさまざまな自然災害が繰り返し発生している。それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、市町村などが協力し合い、さまざまな対策を計画的に進めている。わたしたち一人ひとりが、日頃から防災の意識をもつことも大切である。 ・災害の軽減や水資源の確保、木材の供給など、森林にはさまざまなはたらきがあり、わたしたちの暮らしに欠かせない役割を果たしている。国土や暮らしを守るためにも、森林の手入れを行い、保全を続けていくことが必要で、わたしたち一人ひとりの協力も大切である。 ・環境の破壊は、人々の暮らしや健康に大きな影響を及ぼす。公害や環境破壊を発生させないように、住民や市、工場などが協力して、環境にやさしい取り組みを続けていくことが大切である。わたしたち一人ひとりもできることを考え、実行していかなければならない。		自然災害 公共事業 防災、減災 人工林 林業 森林の育成と活用 住民運動 公害防止条例 エコタウン
・日本は、文化や経済などの面で世界のさまざまな国とつながりをもっている。世界の人々とともに生きていくためには、スポーツや文化などを通して交流しながら、異なる文化や習慣を尊重し合い、協調していくことが大切である。 ・日本は、さまざまな形で国際協力を行うことを通して、平和な世界の実現のために大きな役割を果たしている。また、持続可能な社会の実現のために、国際社会の一員として、自分たちにできることを実行していくことが大切である。		難民 NGO（非政府組織） 国際連合（国連） 持続可能な開発目標（SDGs） 政府開発援助（ODA）
・【第1編／第1章】 大陸と海洋の分布、緯度と経度、主な国々の名称と位置などを取り上げ、世界の地域構成を大観する。その際、大まかに世界の略地図を描けるようにする。 ・【第1編／第2章】 日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを取り上げ、日本の地域構成を大観する。その際、領土をめぐる問題にも着目し、都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地を理解したうえで、大まかに日本の略地図を描けるようにする。 ・【第2編／第1章】 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。世界各地における人々の生活やその変容を取り上げ、世界の人々の生活や環境の多様性、世界の主な宗教の分布を理解する。 ・【第2編／第2章】 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。また、世界の各州に暮らす人々の生活を取り上げ、各州の地域的特色を大観する。 → 1.アジア州-急速な経済発展（人口問題）、2.ヨーロッパ州-結びつく国々（環境問題）、3.アフリカ州-国際協力や支援の動き（人口問題、食料問題）、4.北アメリカ州-さまざまな産業が盛んな理由（多民族の共存の問題）、5.南アメリカ州-自然破壊や都市の人口増加が進んだ理由（環境問題、都市問題）、6.オセアニア州-強まる他地域との関係（多民族の共存の問題）		
・【第3編／第1章】 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。対象地域は、学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を学習に位置付ける。また、さまざまな資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を行う。 ・【第3編／第2章】 ①（自然環境）日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを取り上げて、日本の自然環境に関する特色を理解する。②（人口）少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを取り上げて、日本の人口に関する特色を理解する。③（資源・エネルギーと産業）日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを取り上げて、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。④（交通・通信）国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを取り上げて、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解する。①～④の項目に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し理解する。日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を取り上げて、地域区分をする技能を身に付ける。 ・【第3編／第3章】 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解する。それぞれの考察の仕方を基にして取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。 → 1.九州（自然環境とその保全）、2.中国・四国（人口や都市・村落）、3.近畿（歴史）、4.中部（産業）、5.関東（交通や通信）、6.東北（地域の伝統文化と産業の変化）、7.北海道（自然環境と産業） ・【第3編／第4章】 地域の課題解決のために考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法を身に付ける。		

【歴史的分野】 小・中社会科の連携表

学年		歴史的な内容
前期	小3	「4 わたしたちの市の歩み」 〈市区町村や人々の生活の様子の移り変わり〉 
	小4	「4 地域で受けつがれてきたもの」 〈都道府県内の文化財や年中行事〉 「5 昔から今へと続くまちづくり」 〈地域の発展に尽くした先人のはたらき〉
中期	小5	「2 日本の歴史」(古代～中世～近世～近代～現代) 〈各時代の特色、歴史上の人物(42人)のはたらき〉   
	小6	
	中1	
	中2	
後期	中3	
高等学校		地理歴史科 「歴史総合」

学習の中心概念	取り上げている重要語句
・これまで、人々の生活の中で使う道具が変わるとともに、暮らしの様子も移り変わってきた。 ・市の交通、土地の使われ方、人口、公共施設は、時期によって移り変わってきていて、それぞれに関わりがみられる。	年号 年表
・県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたもので、それらには地域の発展など人々のさまざまな願いが込められている。文化財や年中行事を保存・継承していくために自分たちができる取り組みがある。 ・県内の地域には、よりよい暮らしを求める人々の願いにこたえて、地域の発展に尽くした先人がいた。そのはたらきと苦心によって、地域は新田開発されて発展し、人々の生活は向上した。	年中行事 伝統行事 文化財 伝統芸能 新田開発 人々の願い 工事のくふう 苦労や努力
・狩りや漁・採集を中心とした生活から農耕中心の生活へ人々の暮らしが変化し、社会の様子も変わっていった。各地に大きな勢力をもつ豪族が現れ、やがて大和朝廷によって国土が統一された。 ・大陸の政治や文化に学びながら、天皇を中心とした中央集権の国づくりが進められ、都に大仏がつくられた頃に確立した。やがて、大陸の文化を消化・吸収した独自の日本風の文化がおこった。 ・武士が力をもつようになり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、武士による政治が始まった。 ・室町幕府がおかれた頃に生み出された文化は、現在の生活文化につながる要素をもっており、今も受け継がれて多くの人々に親しまれている。 ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の業績によって、全国が統一されていった。 ・江戸幕府のもとで、武士を中心とする身分制度が確立し、武士の政治が安定した。 ・社会が安定する中で、人々が力をつけ都市が発展していった。そうした中から、歌舞伎や浮世絵などの新しい文化や、国学や蘭学などの新しい学問が生み出され、幕府を批判する動きにつながっていった。 ・明治政府は、西洋の文化やしくみを取り入れながら、天皇を中心とした近代的な国家を目ざして、政治や社会の新たなしくみづくりを進めた。 ・立憲政治の確立や日清・日露戦争での勝利、不平等条約の改正、科学の発展などによって、日本の国力が充実し、国際社会における地位が向上していった。また、産業の発展に伴って、人々の暮らしや社会が変化した。 ・日本は、アジア・太平洋地域で世界の国々と戦争をし、長く続いた戦争によって、国民は大きな被害を受け、他国にも大きな損害を与えた。 ・戦後、日本は平和で民主的な国づくりに取り組み、国際社会からの信頼を回復した。国民生活も豊かになり、国際社会において重要な役割を果たしてきた。	狩りや漁・採集 米づくり 古墳 渡来人 大和朝廷 天皇 仏教 律令 貴族 大陸の文化 国風文化 武士 征夷大将軍 鎌倉幕府 ご恩と奉公 元との戦い 室町幕府 書院造 水墨画 全国統一 楽市・楽座 キリスト教 検地 刀狩 江戸幕府 武家諸法度 参勤交代 身分 年貢 鎖国 歌舞伎 浮世絵 蘭学 国学 寺子屋 儒学 百姓一揆 打ちこわし 明治維新 開国 富国強兵 文明開化 条約改正 自由民権運動 大日本帝国憲法 日清戦争 日露戦争 植民地 民主主義 満州事変 太平洋戦争 空襲 沖縄戦 原子爆弾の投下 日本国憲法 東京オリンピック・パラリンピック 高度経済成長
・【第1章】 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解する。資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめるなどの技能を身に付ける。 ・【第2章】 (ア) 世界の古代文明や宗教のおこり (イ) 日本列島における国家形成 (ウ) 律令国家の形成 (エ) 古代の文化と東アジアとの関わり 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(エ)までについて古代の社会の変化の様子を理解する。 ・【第3章】 (ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流 (イ) 武家政治の展開と東アジアの動き (ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を理解する。 ・【第4章】 (ア) 世界の動きと統一事業 (イ) 江戸幕府の成立と対外関係 (ウ) 産業の発達と町人文化 (エ) 幕府の政治の展開 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を理解する。 ・【第5章】 (ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き (イ) 明治維新と近代国家の形成 (ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり (エ) 近代産業の発展と近代文化の形成 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)から(エ)までについて近代の社会の変化の様子を理解する。 ・【第6章】 (オ) 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現 (カ) 第二次世界大戦と人類への惨禍 経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(オ)から(カ)までについて近代の社会の変化の様子を理解する。 ・【第7章】 (ア) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 (イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、上記(ア)及び(イ)について現代の社会の変化の様子を理解する。これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	

【公民的分野】 小・中社会科の連携表

学年		公民的な内容
前期	小3	「3 地いきの安全を守る」 〈火災・事故への対処と防止、 関係諸機関や地域の人々の諸活動〉 「4 わたしたちの市の歩み」 〈市区町村や人々の生活の様子の移 り変わり〉 「2 はたらく人とわたしたちのくらし」 〈地域の生産や販売の仕事〉
	小4	「2 健康なくらしとまちづくり」 〈水・電気・ガスを供給する事業、 廃棄物を処理する事業〉 「3 自然災害にそなえるまちづくり」 〈自然災害から人々を守るための 関係機関の活動〉
中期	小5	「1 日本の国土とわたしたちのくらし」 〈世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、 日本の位置と領土、国土の地形や気候の概要、 自然条件から見て特色ある地域の人々の生活〉 「2 未来を支える食料生産」 〈農業・漁業、土地利用の特色、 運輸のはたらきなど〉 「3 未来をつくり出す工業生産」 〈日本の工業生産の特色や工業地域 の分布、貿易や運輸のはたらき〉 「4 未来とつながる情報」 〈情報や情報技術を活用して 発展する産業と国民生活の向上〉 「5 国土の自然とともに生きる」 〈公害、国土保全と森林資源、 自然災害の防止など〉
	小6	「1 とともに生きる暮らしと政治」 〈日本国憲法の基本的な考え方と 国や地方公共団体の政治の はたらきなど〉 「3 世界の中の日本」 〈日本とつながりの深い国の人々 の生活の様子、国際的な交流・協 力と日本の役割〉
	中1	
	中2	
後期	中3	第1章 私たちの暮らしと 現代社会 第2章 個人を尊重する 日本国憲法 第3章 私たちの暮らしと 民主政治 第4章 私たちの暮らしと経済 第5章 安心して豊かに暮らせる社会 第6章 国際社会に生きる私たち 終章 私たちが未来の社会を築く
高等学校 公民科 「公共」		

学習の中心概念		取り上げている重要語句
・わたしたちのまちには、ものを売る仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事をするうえで、客の願いに合わせたさまざまな工夫や努力をしている。		売り上げ ねだん 品ぞろえ 新せんさ べんりさ サービス 品質
・わたしたちのまちには、製品（農作物）をつくる仕事で働く人たちがいる。働く人たちは、仕事の中で、さまざまな工夫をしている。		原料 えいせい 出荷 地産地消 作物カレンダー 土づくり
・消防署は、さまざまな機関や地域の人たちと協力して、火事などの緊急時に備えたり、火災を防ぐ取り組みをしたりしている。自分やまちの安全を守るために、自分たちにもできることがある。		点けん くんれん 119番のしくみ 通信指令室 消防せつづ 消防団
・警察署は、さまざまな機関や地域の人たちと協力して、事故や事件に備えたり、安全を守る取り組みをしたりしている。まちの安全のために、自分たちにもできることがある。		110番の通報 法やきまり こども110番の家
・市の交通、土地の使われ方、人口、公共施設は、時期によって移り変わってきていて、それぞれに関わりが見られる。		人口 ぜいきん
・自分たちの生活から出たごみは、衛生的に処理されている。ごみ処理の対策や事業は、市と地域の人々との協力によって計画的に進められており、それによって、自分たちは快適で健康に暮らしていくことができる。		ごみの分別 清掃工場 うめ立て処 分場 資源ごみ リサイクル 3R
・暮らしに必要な水道水を確保していくために、水道事業が広い地域の協力と人々の努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されている。それによって、人々は健康で快適に暮らしていくことができる。		浄水場 ダム 水力発電 水源の森 林 地域をこえた人々の協力 下水処理しせつ 水のじゅんかん
・自分たちの地域では、さまざまな関係機関や地域の人々が協力して地震や津波災害に備えている。地域の一員として、地震や津波災害に備えて自分たちにできる取り組みがある。		過去に起こった地震・水害 防災セット 地域防災計画 関係機関の協力 ハザードマップ 防災・水防倉庫
・日本の国土の位置や広がりの特色として、ユーラシア大陸の東にあり、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合うこと、太平洋や日本海に囲まれた、南北に連なる大小の島々であること、などがある。		国旗 領土
・農家の人たちは、自然条件を生かしながら、さまざまな工夫や努力をしておいしく食べられる米をつくっている。その米をより多くの消費者に届けるためには、流通に関わる人たちのはたらきや、消費量を増やすための新しい取り組みも大切である。		水の管理 品種改良 耕地整理 生産調整 米の消費を増やす試み
・水産業に関わる人々は、水産資源と自然環境を守ることにも気をつけながら、さまざまな工夫や努力をして、新鮮で安心して食べられる水産物を消費者に届け、生産を続けていこうとしている。		水あげ せり 育てる漁業 水産資源
・国内の食料生産をこれからも続け、安心して食べられる食料を確保し続けるためには、質の高い生産に加えて、販売の工夫や新たな技術の開発なども大切である。また、わたしたち消費者も、輸入に頼りすぎないように、食生活を見直していくことが大切である。		食料自給率 地産地消
・自動車の生産には、新たな機能の開発から輸送まで多くの人が関わっており、さまざまな工夫や努力をして消費者や社会のニーズに応えた自動車を生産し、届けている。		ライン 関連工場 ジャスト・イン・タイム方式 ニーズ ユニバーサルデザイン
・さまざまな輸送手段を利用し、貿易によって世界と結びつくことで、日本の工業生産は成り立っている。		貿易 天然資源 輸送手段
・重化学工業を中心としたさまざまな種類の工業生産が、海沿いの工業地帯など日本の各地で行われている。国内の生産を発展させていくには、中小工場などがもつ高い技術や豊富なアイデアを生かし、人々の生活を豊かにする新たなものづくりに挑戦することが大切だ。		工業地帯、工業地域 中小工場、大工場 海外生産
・放送局の人たちは、多くの人に情報を伝えるマスメディアとしての責任をもち、重要な情報を正確にわかりやすく伝える工夫や努力をしている。私たちも、マスメディアの情報を上手に生かしていくこと、責任をもって情報を扱うことが大切である。		情報 メディア、マスメディア 内容のチェック、確認
・情報通信技術を利用することで、大量の情報を集めて管理し、分析できるようになり、さまざまな産業や暮らしの中で便利なことが増えている。その技術をどのように生かしていくべきか、自分に関する情報がどのように使われるのかなどを考えていくことも大切である。		情報通信技術（ICT） 大量の情報（データ） 情報の流出
・日本の国土ではさまざまな自然災害が繰り返し発生している。それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、市町村などが協力し合い、さまざまな対策を計画的に進めている。わたしたち一人ひとりが、日頃から防災の意識をもつことも大切である。		自然災害 公共事業 防災、減災
・災害の軽減や水資源の確保、木材の供給など、森林にはさまざまなはたらきがあり、わたしたちの暮らしに欠かせない役割を果たしている。国土や暮らしを守るためにも、森林の手入れを行い、保全を続けていくことが必要で、わたしたち一人ひとりの協力が大切である。		人工林 林業 森林の育成と活用
・環境の破壊は、人々の暮らしや健康に大きな影響を及ぼす。公害や環境破壊を発生させないように、住民や市、工場などが協力して、環境にやさしい取り組みを続けていくことが大切である。わたしたち一人ひとりもできることを考え、実行していかなければならない。		住民運動 公害防止条例 エコタウン
・憲法は国の政治や国民生活の基本的なあり方を定めており、民主的で平和な社会を目指す日本の政治は、国民の暮らしの安定と向上のために重要なはたらきをしている。		日本国憲法 選挙権 国民主権 基本的人権の尊重 平和主義 国会
・地方公共団体の政治は人々の暮らしと深く結びついており、主権者である国民の暮らしの安定を向上のために重要なはたらきをしている。		内閣 裁判所 三権分立 税金 少子化 高齢化 人口減少社会 地方自治 社会保障
・日本は、さまざまな形で国際協力を行うことを通して、平和な世界の実現のために大きな役割を果たしている。また、持続可能な社会の実現のために、国際社会の一員として、自分たちにできることを実行していくことが大切である。		難民 NGO（非政府組織） 国際連合（国連） 持続可能な開発目 標（SDGs） 政府開発援助（ODA）
・【第1章】 現代日本の特徴として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解する。現代社会における文化の意義や影響について理解する。現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解する。人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解する。		
・【第2章】 人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。		
・【第3章】 国会を中心とする日本の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解する。議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。		
・【第4章】 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。市場経済の基本的な考え方について理解する。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解する。現代の生産や金融などの仕組みやはたらきを理解する。勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解する。		
・【第5章】 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解する。財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。		
・【第6章】 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合のはたらきなど基本的な事項について理解する。地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。		
・【終章】 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。		